

卒論を書くために

9

提出にむけ

とにかく書き始める

学園祭が終わり、ついに十一月になった。気の早いお店ではクリスマスソングが流れ始める頃だが、クリスマスの前に卒論の締切があることを忘れてはならない。恐らく、知りたくはないだろうが、卒論提出まで、あと四日である。あれこれと理由をつけて作業開始を先送りしていた人も、すぐに執筆を始めないと間に合わない。

もっと早くから手を付けていたらよかったとか、なぜ時間のあるときにもっと史料を読んでなかったのかとか、どうしてこんなテーマを選んだしまったのか……といった思いが去来することもあるだろう。しかし、ここに至っては、反省も後悔も卒論を提出し終えてからにしよう。まず、書けるところから書き始めること。これまでのレポートのように、最初から書こうとするとつまずいて書けなくなるかもしれない。「はじめに」を書くには、

研究史整理や課題の提示など、それなりにエネルギーが必要だから。ここで書けなくなってしまうと、いっこうに本文に取りかかれないということにならないように。書けないようなら「はじめに」は後回しでもかまわない。結論が書けたら、その答えに相応しい問いを考えて、それに合うように研究史整理や理屈づけをするのも一つの方法である。

それよりも、本文が書けそうなら、まず本文を書き始めること、本文もちよつと……という場合は、とにかく絶対に使いそうな史料を入力していくこと。史料の入力にも時間がかかる。一字一字を確かめながら入力作業をしていけば、自然に今までよりも史料を眺めることになる。ここで思いがけないことに気付くかもしれない。

とにかく、何が何でも、書けることから書いていく。書けないところは後回し。後で確認が必要な部分も後で補えば良い。最初は書けないところ空欄でもいい。真っ

白のままだと不安が募るばかり。少しでも字数が増えていけば、段々と落ち着いてきて、心に余裕も出てくる。

危機管理をする

この時期になると、ちょっとした事故が命取りになる。一万二〇〇〇字を超える論文をかくことなんて、普通なら一生に一度のこと。いわば未知の世界である。どんな想定外のことが起こるかわからない。だから、しっかりと危機管理をしておくことが重要である。

まず、データのバックアップは必須。いつ、何時にパソコンがクラッシュするかわからない。パソコンのハードディスクに保存しているだけだと、とても危険。最低でも二ヶ所、できればそれ以上にデータを保存しておくことが望ましい。作業が一段落したら、パソコンに保存するのと一緒にUSBメモリなどに保存すること。

もし、入力は自宅ですべて、出力は大学の共同研究室や情報処理センターを使う予定なら、USBメモリは二つ用意し、両方に同じデータを入れておくのが安全。普段使っているパソコンなら問題なく使えても、別のパソコンで使おうとするとメディアを機械が認識しないこともある。

るからである。

ただ、電子データというのは、消えてしまうときは一瞬である。だから、ある程度の作業が進んだら、プリントアウトして紙の状態に保管していくことがオススメ。アナログな方法だが、これなら万一の事態が発生してもスキヤナーをつかって読み込むこともできるし、場合によったら友達や後輩に紙から入力を手伝ってもらうこともできる。紙の方が推敲は容易というメリットもある。

データの管理という意味では、インターネット上の情報も要注意。デジタルアーカイブなどに上がっている史料を使っている人もいるだろう。これは、いつでもアクセスできるからと油断してはいけない。いざ卒論を執筆し始め、再確認しようとするときサーバーメンテナンスやリンク切れなどで、閲覧できなくなっていることもある。必要になることが予想されるのであれば、データをダウンロードして手元に置いておくか、プリントアウトしておく方が安全である。

データの危機管理も必要だが、ハードの管理も大切。普段使っているパソコンやプリンタが故障して使えなくなることもあるかもしれない。ある日、いつものように

パソコンで卒論の続きを書こうをして電源を入れるが、ウンともスンともいわない……とか。毎年、一月になると「パソコンが謀反を起こしました」という報告を聞くことになる。「先生、この時期にパソコンが壊れるというのは都市伝説じゃなかったんですね……」と涙目で言われるのも、なんか風物詩になりつつある。

パソコンが壊れて、慌てて買いかえたパソコンが納品されるまで、ネットカフェで卒論を書いてたという話もあった。笑えない話だが、自宅生でパソコンを家族が共同で使っている場合には、「お父さんが出張にノートパソコンを持って行ってしまった」ということもあった。パソコンだけではない。プリンタが故障したり、いざ出力しようとしたらインク切れや紙づまりを起こしたり、プリンタを無線で使っているとネットワークトラブルが起こったり、本当に色んなことが起こる。

消耗品は多めに用意しておくこと。いざというときのためにマニュアル類がどこにあるかも確認しておこう。ハードの故障は、前触れもなく起こるものなので対策を立てようはないが、不測の事態が起きても対応できるように早めに作業を進めておくのが何よりの対策になる。

余裕を持つて

何事も焦るとロクなことはない。切羽詰まっているときに限って、なぜか色々なトラブルが起こる。パソコンがフリーズしたり、出力しようとしたらウインドウズが勝手に更新を始めた……。ギリギリの状態だと不測の事態が発生するとパニックになってしまうから、何があっても冷静に対応できるように、ある程度の余裕をもって作業をすること。

共同研究室や情報処理センターの機器を使う予定の人は、特に十分に余裕を持つて臨むこと（処理センターの印刷ポイントの残数も注意）。普段では考えられないような人数が殺到する。提出締切直前になれば、出力も順番待ちになる。最終日には自分の順番が回ってくるころには時間切れかもしれない。また、共同研究室のプリンタは業務用ではなく家庭用のものだから、何十人もが次々と何十枚もの出力をすることまでは仕様上、想定していかないかもしれない。オーバーワークで機械が故障することもありうるので注意する。修理に出すとなると一週間くらいは使えなくなるかもしれない。もちろん、機器の故障などは提出遅延の理由にはならない。

それから、困ったことに人災も発生する。共同研究室では、プリンタが紙詰まりを起こしたら、パニックになるのか修理もしないで姿を消す人が稀にいる。プリンタに詰まっている紙を取りだしたら犯人発覚ということも他の人に迷惑がかかるので、共同研究室のプリンタが紙詰まりやインク切れを起こしたら、復帰をしておくこと。とにかく時間ギリギリの提出はしない。事故で電車が止まったり、慌てて怪我をしてしまったり、不慮の事故で提出できないリスクが高まってしまふ。できれば初日に提出するくらいのもりで作業をすること。

身体に気をつけて

この時期に壊れやすいのは機械だけではない。人間も不思議なことに壊れやすくなっているようだ。

次第に冷え込む季節、夜遅くまで頑張っていると身体が冷えてしまうのか、風邪をひいてしまう人も多い。一晩徹夜しても、体調を崩して二日寝込んでしまつては元も子もないので、体調管理はしっかりと。風邪をひいてゴホゴホいいながら、研究室に相談に来て、ウィルスをまき散らし、その後から相談に来た別の学生（と教員）

に感染させるといふ二次被害も起きる。本人は、スッキリして作業に打ち込めるかもしれないけど、誰かに迷惑かけるかもしれない。

まずは、計画的に作業を進め、しっかりと睡眠を取って、三度のメシをちゃんと食べて、風呂に入ること。時には（適度に）気晴らしも。励みになるので卒論提出後のお楽しみ計画も立てておこう。

そして、ゼミには出席すること。作業が佳境には入ると時間をかけて大学に行くよりも、うちで卒論を書いて方が……と思うかもしれない。しかし、週に一回のゼミには来るように。他の人も同じようなことで悩んでいるかもしれない。一人であれこれと悩むより、他の人の力を借りればうまくいくこともあるかもしれない。他の人のゼミ発表の内容にヒントがあるかもしれないし、ゼミ発表に対する教員のアドバイスは、発表をした人以外も役に立つことがある（と思う）。

※ ※ ※

提出まで色々大変だと思えますが、身体に気をつけて乗り切ってください。皆さんのこだわりの一杯詰まった卒論の完成を楽しみにしています。